

第2回府中市下水道事業経営戦略等検討協議会会議録

■開催日時 令和7年6月23日（月）午後3時から午後5時まで

■開催場所 府中駅北第2庁舎 3階会議室

■出席委員

大橋啓吾委員、金子雄一郎副会長、川村英史委員、北島美都子委員、
長岡裕会長、松木紀美子委員

■欠席委員 なし

■事務局

山田都市整備部長、轟都市整備部次長兼道路課長、
塩澤下水道課長、奥下水道課長補佐、高橋下水道課主任、來栖下水道課主任
日本水工設計株式会社武井氏、福永氏

■傍聴者 なし

■議事日程

- 1 議題
- 2 その他

■会議録（要旨）

○事務局 定刻となりましたので、ただいまより、第2回府中市下水道事業経営戦略等検討協議会を開催させていただきます。それでは、進行につきましては、長岡会長よろしくお願いいたします。

○会長 暑い中お集まりくださりありがとうございます。今日は前回に続きまして、第2回の検討協議会を開催いたします。

私は府中市民ではないですが、府中本町から歩いてくると、けやき並木がなかなか清々しく、いつも通るたびに非常にいいところだと思っております。

はい、それでは、まず事務局に確認いたしますが、本日の傍聴の申し出はありますでしょうか。

○事務局 傍聴希望者はありません。

○会長 それでは、お手元の次第に従って議事を進めますが、まず事務局から、資料の確認をさせていただきます。

（配布資料の確認）

○会長 それでは、議題の1「第1回協議会の振り返りについて」、事務局からご説明をお願いいたします。

○事務局 それでは、資料に基づき、ご説明させていただきます。

（資料の詳細説明）

○会長 ご質問ご意見があればお願いいたします。

○委員 10ページの事業費に関する説明について確認いたします。現在、事業費は13億円と見積もられておりますが、老朽化した設備等が多く存在するため、突発的な臨時支出が生じる可能性があります。こうした不測の事態に備えた予備費の設定状況についてご説明いただけますでしょうか。

○事務局 スtockマネジメント計画に基づかない突発的な修繕対応については、原則として緊急修繕として取り扱っており、これらの費用は下水道事業経

営の予算内に含めています。物価上昇分については、先に示した物価上昇率を適用し、現状指数より高い値で財政シミュレーションへ反映しております。

○会長 修繕の費用はどのぐらい確保しているのか。

○委員 通常、予算には予備費が組み込まれているため、その金額により予想外の突発的な支出や予算オーバーに対する支出にも対応できると思います。この点も踏まえて説明頂ければと思います。

○事務局 緊急修繕の対応費として約1億5千万円を予算に計上しており、この金額は財政シミュレーションにも必ず含めています。

○会長 13億円という金額について、体制や財政面を考慮して実施可能な事業量と書かれているが、これは13億円で管の更新や修繕が進むという理解でよいでしょうか。

○事務局 はい、その通りです。ストックマネジメント計画の試算では、年間30億円以上のコストが見込まれます。ただし、これは緊急度1と2の対象を全て迅速に対応した場合です。実際には、緊急度1は直ちに着手し、緊急度2は平準化することで、年間13億円で運用できるよう計画しています。

○会長 分かりました。

○委員 前回、質問させていただいた、物価高騰に対する考え方に関するご説明で、データも交えて分かりやすく解説していただきありがとうございます。ただ、人件費や土木工事単価の上昇は現時点では見込んでいないとのことでしたが、その点が大きなポイントだと感じました。今後、物価や人件費の動向を調べ、関係者に負担がかからないよう配慮しながら進めていただければと思います。

○事務局 補足させていただきます。ストックマネジメント計画の13億円には、土木などの物価上昇分も含まれています。ただし、この13億円を全額使うわけではなく、調査や設計により実際の費用は13億円を下回る見込みです。すべて改築するのではなく、一部は修繕で対応するためコストが削減できます。そのため、浮いた分は物価や人件費の上昇分に充てられると考え、今回のシミュレーションには物価上昇を見込んでいないと書かせていただきました。

○委員 この表現では内容が分かりづらく、市民には伝わりにくいと思います。今の説明で多少理解できましたが、誤解されやすいので、もっと分かりやすい書き方に改めてほしいです。

○事務局 承知いたしました。

○副会長 調査や設計、一部を修繕で対応することで、物価上昇分をカバーできるかどうかは不透明です。数値で根拠を示さないと、「大丈夫」とだけ言われても判断が難しいと思います。

○会長 内容が少し分かりづらいので、どの程度の数値を見込んでいるのか、具体的な数字で説明してください。

○事務局 承知しました。

○委員 2点あるのですが、1点目は、工事請負費がストックマネジメント計画に基づいて設定され、市の財政や執行体制による上限があるため、財務シミュレーションに含めていないという説明でしたが、この点について事実関係と表現方法をさらに詳しく記載してほしいです。

2点目は、人事勧告の適用年度についてです。令和7年度の新規採用初任給は大幅に上がっており、市場動向も踏まえて資料に反映した方が良いと思います。この2点が要望です。

○事務局 検討させていただきます。

○会長 6ページについてですが、国からの補助が少ない理由と事業対象施設との関係性について、もう少し詳しく説明していただきたいです。

また、11ページの点検実施項目で「800ミリ以上は歩行可能」とありますが、本当に800ミリで歩けるか疑問です。この2点について、ご確認をお願いします。

○事務局 国庫補助の対象となる管径は大口径ですが、これまでは主に小口径で事業を実施していたため、該当しませんでした。今後は対象となる可能性が高く、積極的に活用したいと考えています。

○会長 書いてもらえると分かる。

○事務局 記載します。

「800ミリ以上」という記載についてですが、人が中に入れるサイズとなります。この場合、「歩行可能」とはしていますが、先行目視できる一般的な管渠の大きさとして800ミリ以上と表現しています。

○会長 「潜行」は寝て作業することですよね。例えばミニシールドの工事なら横になって作業して点検し、引っ張っていくというイメージですが。

○事務局 人が実際に人孔内に入れる大きさが一般的に800ミリとなっております。

○会長 本当にそれで点検できるのでしょうか。少し気になったので、後で調べてもらえると助かります。

○事務局 800ミリ以上の場合、潜行目視で点検するというルールが国交省で定められています。全国特別重点調査では2m以上が対象ですが、基本的に800ミリ以上は潜行目視が原則です。

○会長 分かりました。

○委員 補足ですが、800ミリの管なら人は十分入れます。マンホールの間隔も狭く、800ミリなら屈んで進むこともでき、我々も実際に作業しています。500ミリはさすがに難しいですね。

○会長 800ミリならぎりぎり、確かに。分かりました。

○委員 表の年度欄ですが、一番上と2行目の間の「22年度」、2番目と3番目の「令和元年」の数字が抜けている理由を教えてください。以前にも聞いたかもしれませんが、念のため確認させてください。

○事務局 22年度はストックマネジメント計画の前身である長寿命化計画を策定したため、調査を実施しなかったものです。令和元年も同様で、ストックマネジメント計画策定に伴い調査は実施されませんでした。事業自体が中止されたわけではありません。

○副会長 スtockマネジメント計画の第1期について、緊急度1から4及び劣化なしの割合、そして下水道管の状態を教えてください。調査結果が分かる範囲でお願いします。

○事務局 資料を確認していますので、少々お待ちください。

○副会長 緊急度が高い修繕や大規模工事が必要になった場合、資材費の高騰や労務費の上昇もあり、Stockマネジメント計画通りに進んでいるかどうか確認したいです。軽微な修繕だけで済んだのか、正確な状況を知りたいと思います。

○事務局 承知しました。Stockマネジメント計画は各期ごとに計画・詳細設計を行っており、現在見込んでいる13億円の事業費は参考値です。費用は積算していますが、今回は詳細な情報が不足しているため、次回以降により具体的な数字をお示しします。

○副会長 ありがとうございます。後のシミュレーションなどにも関係してくると思いますので、よろしくお願いします。

○会長 はい、他はよろしいですか。

続きまして、「下水道使用料の改定案について」、事務局からご説明をお願いします。

○事務局 それでは、引き続き資料に基づき、ご説明させていただきます。

(資料の詳細説明)

○会長 ご質問ご意見があればお願いいたします。

○委員 表の見方ですが、37ページや最後で説明された改定金額は10年間の基準値でまとめられています。ただ、年度ごとの収支で見ると、10年分の金額は非常に大きく感じるため、10で割って1年分として比較した方が分かりやすいと思います。例えば、現状の使用料収入は189億円ですが、10年分の計算になっていることが明記されていません。金額が非常に大きく見えるので、その点が気になりました。

○会長 見た感じの印象ですが、そういうご意見です。

○事務局 承知しました。

○会長 10年分と1年分を併記してもいいですが、分かりやすくする方法を検討してください。

○委員 それがない場合は、41ページの表に「10年」と書いてもらえば良いと思います。

○会長 もうちょっと工夫してください。

○事務局 もう少し分かりやすい資料作成に努めたいと思います。

○会長 はい、他いかがですか。本日は、この5つの中から候補を絞り込みます。決定ではなく、絞り込み作業です。ご説明で疑問があれば、仰ってください。

○委員 もう一点ですが、27ページと38ページの累進度について、数値が「3.43」と「3.4」で統一されていません。統一しなくても問題ないでしょうか。

○会長 統一した方がいいですね。

○事務局 統一するように修正します。

○会長 41ページの使用料体系比較についてですが、下から2行目の「固定的経費に占める基本使用料の割合」が現行も改定案3も66.4で同じですが、これは偶然でしょうか。

○事務局 改定案3は基本使用料を現行の266円のままとします。そのため、回収額や経費の比較も現状と同じで、66.4%も変わりません。

○会長 分かりました。

○委員 案を絞るわけですね。

○会長 1つではなく、3つぐらいにしたいと思います。

○委員 経費の区分として固定費と変動費の二つが示されていますが、固定費部分の負担方法について、多くの自治体では基本料金のみで全額を賄っていない実態があります。この点について今後どこまで考慮すべきか、より分かりやすくご説明いただくと理解が深まります。特に、固定費とは人口減少や増加に関わらず発生するものであり、基本料金によって負担する仕組みであっても、算定式上は人口変動の影響が現れません。制度の根拠や算定方法について、明確な説明をお願いできますでしょうか。

○会長 改定案4の100%にするという考え方は重要です。これについて説明していただけますか。

○事務局 今回の前提は、府中市第7次総合計画に基づく10年間の人口予測です。人口は約26万人で微増からわずかな減少まで見込まれていますが、ほぼ維持できると考えています。この数値を基本使用料の基礎としています。

基本使用料割合は現状66.4%ですが、比率が高いほど収入は安定する一方、市民といった小口使用者への負担も大きくなります。改定案3では、基本使用料据え置きで企業の変動費負担が増加します。企業の努力により使用水量は変動するため、安定経営には基本使用料が固定経費に占める割合が高い方が望ましいですが、必ずしも100%である必要はありません。

財政シミュレーションでは収入を全体で20%増やす計画となり、それを前提に基本料金や従量使用料単価を細かく設定します。企業や市民の立場によって様々な意見が予想されるので、ご意見をお伺いしたいと考えています。

○会長 他市と比べて府中市の基本使用料が固定的経費に占める割合は非常に高く、これは府中市ならではの特徴だと思います。普通は100%にはならず、近隣の市町村ではもっと低いはずですが、この原則通りの料金体系で問題ありませんが、他市のデータがあれば参考にしたいです。

○事務局 お待ちください。

○事務局 100%に近づけることが、国等が示す基本的な考え方となっています。例えば4番と5番を比較すると、4番は100%、5番は約90%となっており、経営的な安定性の面では4番が優れていると評価できます。ただし、上段の使用料体系、特に50㎡までの区分を見ると、僅かな違いではありますが小口使用者の負担に差が生じています。このため、本日は経営的な安定性や利用者区分ごとの負担など、多角的な視点からご意見を伺いたいと考えて

おります。本日中に最終決定を行うことは難しいですが、幅広いご意見をいただけますようお願いいたします。

○会長 42ページのグラフを見ると、それぞれの使用水量ごとに負担の増加が分かりやすいと思います。実際、このグラフを参考に判断することになるでしょう。

○委員 改定案1や改定案3では、大口利用者の料金が大幅に引き上げられることとなります。府中市には大企業の工場などが多く残っており、これらの企業は地域経済や税収にも貢献しています。そのため、大企業への負担増加について慎重に検討する必要があります。個人的には、案4や案5のような選択肢が適切ではないかと考えています。改定案1や3は大口利用者への負担割合が高い印象が強く残ります。

○会長 私もそう思います。

○委員 1案はすべてが120%上昇しており、平等な分配となっています。ただし、固定費については79%しかカバーできず、全体としての適合性には課題が残ります。他の案については、3案では企業側の負担が多くなり、2案ではその逆となります。

○会長 2案は企業が逆にほぼ変わらず、小口が負担すると。

○委員 弱者への負担が軽減される点から、5案が最も良いと考えています。パーセンテージを90%に調整することで第1案よりも改善されていますし、他の数値を見ても全体的にバランスが取れています。ただし、さらにパーセンテージを調整して比較すれば、もっと納得できる結果になりそうです。結論としては5案がベストですが、もう少し調整が必要だと感じます。均等配分なら1案でも問題ないでしょう。

○委員 120%一律について、大企業が府中に拠点を置くメリットは地下水があるとかいろいろあるだろうが、公平性は大切ですが、料金にも配慮があることで大企業がこの地にいるというメリットなのかなと思うので、4番か5番の案がより妥当だと考えます。

○委員 一般市民の多くは、この20^mの範囲だと思います。この範囲に関しては、各数字の影響は小さくなく、経済的にも厳しい方たちじゃないと思いま

す。他市と比較して安価であることを説明すれば、納得される水準と考えられます。これまでの状況では、大企業が比較的大きな負担を担っており、市民料金は低く抑えられていました。企業さんにこれ以上負担をかけるのを申し訳ないと思う一方で、現在、経済的に厳しい状況に置かれている市民も一定数おりますので、そこを踏まえたと、提案されている5番案よりも、パーセンテージをさらに下げるぐらいのところ、妥協する案なのかなという気がします。

○会長 90%を85%とか、そういう感じですかね。

○委員 現在、利用者の約55%が個人利用、大口利用が約33%を占めており、その他が中間層になります。今後は人口減少が進むと予測されていますが、企業は色々な努力によって少ない資源で同じ生産ができます。そういうような傾向等も踏まえた資料があれば参考にしたいです。特に、10年ではそう変わらないと思いますが、その後大きな変化があっても困るので、最新の技術動向についての情報も知りたいです。

○会長 今後の見通しについてですが、難しいとは思いますが、何か情報があればご提供ください。

○事務局 調査し対応します。

こちらの数値は、令和2年のコロナ流行時に利用が減少し、令和4年か5年頃から回復傾向にあることを示しています。コロナ前後で状況が変化しているため、過去の情報は参考にならない場合がありますが、可能な範囲で整理しご提示します。

○事務局 他市でも経営戦略や使用料の改定が進められています。現在提示できる資料は近隣の調布市のものです。調布市では、こちらで計算しましたところ、固定的経費の約61.68%が基本使用料で回収されています。この情報はホームページでも公開されており、改定率は29.8%で令和8年度から適用予定です。

○会長 改定率は30%で今の府中より高いですが、基本使用料の割合は通常それほど高く設定できません。調布は60%ですが、他にはもっと低いところもあります。100%案が出ているのは府中市ならではだと思います。

○委員 20㎡の金額が変わらないのであれば、一般市民としては負担がそれほど増えたと感じません。ただ、府中市では企業の数が多いため、企業への負

担が大きくなるのは心配です。企業があることで市にもメリットがあるので、負担が重くなりすぎないように4か5くらいが良いと考えます。

○副会長 色々な意見が出ましたが、改定率が20%の場合でも、0 m³や10 m³の区分では138%となり、数字上では約40%上昇することになり、これは高い水準と言えます。改定率を20%に近づける形で、その上の部分に調整を加える案が妥協案なのかと感じます。改定率を見ると、小口の場合に高くなる傾向があり、やむを得ない面はありますが、数字だけで見ると131%はやや高いと感じます。

○会長 10 m³はおそらく一人世帯向けです、1人あたり1日約300ℓなので。案4の場合は150%、案2なら175%になるので、これだけを見ると厳しく感じる。10 m³の考慮する必要がある。

○副会長 その部分は、下を少し下げて上を若干上げれば調整できます。大口も含めて上を調整することで、この範囲をカバーできると考えます。要はカーブをどうするかだと思います。

○会長 事務局に相談ですが、現時点では「4」や「5」の支持が高いです。特に「5」が最も多い印象ですが、「5」は計算できますか？

○事務局 次回の協議会でよろしければ。

○会長 次回で大丈夫です。1番にはあまり支持がないという感じですかね。

○事務局 ③というご意見はなかったかなと承知しておりまして、ご意見として出たのは①、②、④、⑤で、⑤の派生版というか、そういったご意見も出ていましたので、それを次回お出しさせていただいて、改めてご意見いただき、最終的に決めることでよろしいでしょうか。

○会長 ②は、1,000 m³がほとんど上がらないため、説明が難しいと思います。①は数字的に公平なので、改定時に一番説明しやすいです。また、④や⑤の支持も高いですが、ダッシュについては85ぐらいが良いかと思います。

○事務局 今回は選択肢が多すぎると決めづらいため、①、②、そして本日いただいたご意見を反映させた⑤の改定案をご提示し、この3つから皆さんに選んでいただく形はいかがでしょうか。

○会長 ⑤は90%ではないのを⑤案にするということか。

○事務局 ⑤について修正を加えるとより良くなるのご意見がありました。パーセンテージは現時点で答えられませんが、⑤の修正案を提示する形で進めてはいかがでしょうか。

○会長 事務局から案が出されましたが、どうでしょうか。⑤を少し変更すると1,000㎡の数値がさらに増えますがよろしいですか。85%程度が適切かもしれませんが、現在の⑤について具体的にどこを修正すべきか、いかがですかね。

○委員 0から10㎡の138%という数値が特に高すぎるとの意見が多かったように思います。他の区分が110から120%程度なので、このパーセンテージを調整して138%を下げれば、全体も80%台になるというところかと思えます。

○会長 区分の料金を変えてもいいのですよね。

○事務局 今回は、既存の累進度から近い数字を採用しています。累進度の調整も可能ですが、案が増えてコントロールが難しくなります。

○会長 138%が高いという意見があるので、もう少し緩和した案を⑤として検討できますか。

○事務局 貴重な意見をいただきましたが、⑤案については固定費の90%ではなく、85%など他の案も検討します。企業や一人世帯の方々への影響も考慮して、いくつか提案させていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

○会長 いいと思います。

○委員 41ページと37ページの数字が一致していないことに気づきました。37ページの表では必要資金の合計が233億5800万円ですが、41ページの一番下の行ではどれもその数字に達していません。支出と収入を合わせるための改定ではないのでしょうか。第5案でも222億4300万円ですが、このままで問題ありませんか。

○事務局 次回3つの案を出す際、こちらも再度確認し、もし数字に誤りがあれば訂正します。

○会長 数字については分かるようにしてください。
では、①、④、⑤の案で絞り込むということによろしいか。

○事務局 ①と④は⑤よりも極端なので、①と⑤と残し、そして⑤が①に近づいた派生型の3種類でよろしいでしょうか。

○会長 ④にも支持が結構あると思う。

○委員 企業の観点から見ると、私は⑤を推したいと思います。改定案4の場合、10㎡までの数字が特に高く、金額も低くはありません。よって、⑤の方が良いと考えます。

○会長 ①と⑤と⑤´でいいですか。

○委員 ⑤の10㎡以下の世帯の38%という割合は高いという意見があるが、妥当なりミットがどのくらいか、感覚的な意見がパーセンテージの目安になる。特に独身で府中市に住み続ける人や、軽減制度の対象にならない方もいるので、それを考慮してパーセンテージがどのくらいがいいか委員の方から教えてもらいたい。

○会長 20㎡が121%なので、だいたいこのくらいか、それ以下だと思えますが。

○委員 金額で言ってもらえると分かりやすいです。これは1ヶ月なので、1年でどのくらいかと言った方が比べやすいかと思えます。

○委員 120%は改定案で数字が出ているので、これと同じになると思えます。

○事務局 10㎡の場合、現在は月額921円です。改定案1では年間696円の増加となり、改定案2では2,640円の増加となります。改定案3は変更なし、改定案4は1,908円の増加、改定案5は1,332円の増加となります。

○委員 増加額については、全体の金額で示した方が分かりやすいです。たとえば5案の場合、10 m³以下の方は年間で4,836円、1案なら4,200円です。現在は3,500円ですが、それが4,500円や4,800円など、20%から38%上がるという感覚です。

○委員 生活保護をもらえる方なのに、申請しない方とか結構いらっしゃるのです。

○委員 そうです。そういう方たちがいるのは分かっているので気になった。

○委員 どのくらいのパーセンテージがいいかということですが、おそらく多くの方が値上がりしない方がいいと思っています。ただ、維持ができないので値上げをするということならば、120%ぐらいなら納得されるんじゃないかなと思います。

○会長 そう思います。

○事務局 改定案5について、例えば10 m³などのパーセンテージを下げる、どこかで補填が必要となります。いただいたご意見を踏まえ、より納得いただける案を事務局にて再度検討し、次回ご提案いたします。

また、改定案5に関するご意見がありましたら、会議後2週間以内に事務局までいただけましたら、より良いバージョンを作成してお示しいたします。よろしく願いいたします。

○会長 20 m³が121%なので、それぐらいだと思います。1、5、5'の案でよろしいですか。それでは、次回改めて審議します。非常に活発な議論、ありがとうございました。

それでは続きまして、その他の議題に移ります。

○事務局 一点だけ、ストックマネジメント計画に関する事で、補足させていただきたいと思います。

○事務局 先ほど副会長からご質問があった第1期の緊急度についてご説明します。第1期では約100kmの下水道管を調査した結果、緊急度1は0.5km、緊急度2は4.6km、緊急度3は6.3kmでした。その他は健全と判断しています。これまで緊急度1・2、計5.1kmのうち、既設管布設替え工事を

4 m、内面被覆工事を3.1 km 実施済みで、残り2 km は今年度施工予定です。詳細は次回の協議会で、図や数字で報告いたします。

○会長 次回、資料をお願いします。

○事務局 その他について説明します。次回の協議会は8月25日（月）午後3時に開催予定です。日程が近づいたら改めてご連絡します。

次回は、本日絞りました①案、⑤案、⑤案の派生形の3つを改めてご提示します。

○会長 以上で、協議会を終了いたします。どうもありがとうございました。